

伊方原発の再稼働を認めないでください

8月11日、九州電力は鹿児島県の川内原発1号機を再稼働しました。原子力規制委員会は7月15日、伊方原発3号機が「新規制基準に適合している」としました。四国電力は、工事計画認可等の取得をめざし、一日も早い再稼働をめざすと発表しています。

しかし、新規制基準適合は「事故が起こらず、安全である」と確認されたものではありません。原子力規制委員長は「現状で、このぐらいの安全というか、リスク低減を図るという意味での」適合性審査と言っているに過ぎません。安倍首相は「世界で最も厳しいレベルの新規制基準に合格」と言いますが、「安全」とは言いません。しかも、適合性審査には、「基準地震動の過小評価」や避難計画も十分でないなどいくつも問題点が指摘されています。

伊方原発の全面停止から3年7カ月、全原発が停止して2年近くを経過しましたが、原発なしでも電力は十分に賄えることが証明されています。原発を再稼働しないとエネルギーが不足するという根拠はまったくありません。

福島第一原発事故から4年半になろうとしています。いまだに福島では11万人余の人々がふるさとを奪われ、避難生活を余儀なくされています。復興住宅の建設も進まず、劣悪な仮設住宅での生活が避難者の身体と心の健康をむしばんでいます。被災者の救済すら終わっていません。原発事故の原因究明も行えず、事故は収束していません。

原発が重大事故に至れば、制御不能となり、放射性物質が外部に漏れ、甚大な被害を出し続けることが避けられません。

3月の愛媛新聞世論調査では69%の県民が伊方原発再稼働に否定的です。全国の世論調査でも再稼働反対が過半数であり、原発の再稼働ではなく、自然エネルギーへの転換を進めることこそが民意であると考えます。

いのちとくらしを守るために結成した私たち医療生協は、原発のない、安全な社会をめざします。

県民のくらしと未来を守るため、伊方原発再稼働を認めないことを知事に強く求めます。

2015年8月26日

愛媛医療生活協同組合第2回理事会